



Principal's Message

この数週間、スクールではわくわくするようなイベントがいろいろありましたが、中でもとりわけ大きなイベントは、G5のエキシビションでした。

エキシビションは、プライマリー・イヤー・プログラムの最終学年を終えるにあたって、最高潮に達するイベントです。

PYPを卒業し、MYP(ミドル・イヤー・プログラム)へ進学する生徒たちの記念すべきイベントでもあります。

スクールと生徒の両方が、プログラムの重要な要素と一緒に取り上げ、それをスクールコミュニティ全体で共有するという大変重要なイベントです。

KISTでは、このエキシビションを生徒がPYPで学び、身に付けてきたスキル、知識、理解、求められる学習者像を集大成するプロセスと見なしています。

今年のエキシビションは、生徒が学習の結果として行動をとり、自分たちの世界に意味のある貢献をしている様子を見る絶好の機会となりました。

生徒たちは、私たちに、私たちが今日選択する行動が、地球にのちのちまで影響を与え、未来の世代の生命にまで係わるのだという、はっきりしたメッセージを伝えました。

今月のニューズレターには、エキシビションアクティビティーとして生徒が創作した、記事、詩、ポスターの一部を載せています。彼らの学んだことや考えたことをスクールコミュニティで共有したいと思います。

是非この機会に生徒のワークをじっくりお読みください。

G5の生徒、担任のMrs AstropとMr Matamu、そして the Exhibition Mentor チームの皆さん、2008 G5 エキシビションの成功おめでとうございます。

6月のニューズレターでは、本年度最後を締めくくり、離任するスタッフにお別れをしたいと思います。また、本年度の成果のいくつかを取り上げ、次年度の計画を紹介する予定です。

Sasha Marshall
School Principal

Dates to Remember
Term 3



June:

2nd June:

K1-G5 Normal Day
Secondary Holiday

3rd to 6th June:

No ESL or Clubs

13th June:

Secondary End of Year Event

14th June:

Rescheduled Secondary Sports Day

16th June:

Student Free Day
(No school for all students)

26th June:

Grade 5 Graduation

27th June:

K3 Graduation
No ESL or Clubs

August:

18th-25th August:

Summer School
(see handout for details)

September:

8th September:

First day for Primary and Secondary

9th September:

First day for ECE

News from the ESL Department

年度末が近付いてきました。ESLのお子さんのESL exit testが行われます。ESLプログラムを卒業(exit)することがゴールではありませんが、この時期、保護者の方も教員も生徒にあまりプレッシャーを与えないように気をつける必要があります。

Tim Gallway は著書The Inner Game of Tennis(1974)で「リラックスした集中力があらゆる分野でその卓越さのキーとなる」といっています。これは、スポーツだけでなくテストへの準備にも当てはまり、実際、自らが、または他の人がプレッシャーをかけすぎるとベストの結果が出ず、成功する可能性が下がることを示唆しています。

他のESL教員と結果を検討していますが、お子さんたちの英語スキルには、著しい向上が見られます。もし、お子さんが今回ESLプログラムを卒業できなくても、どうぞお子さんの努力を認め、褒めてあげてください。このようなお子さんに対するポジティブなフィードバックが来年度さらに成功していくための良い環境を築き上げるために大切なものです。

今回ESLプログラムから仮卒業できたお子さんたち、おめでとうございます！英語スキルが大幅に低下してしまうことのないよう、夏休みの間も引き続き英語を使うようにしてください。夏休みは、お子さんが英語でいろいろなものを読むチャンスです。フィクション、ノンフィクション、ニュース(ネットでいろいろ手に入ります)、インターネットなどで試してください。最後に、8月のサマースクールは、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングのスキルを磨く絶好の機会をお子さんに提供し、確固とした言語スキルをもってESLプログラムを卒業することができることをお伝えしておきます。

今年一年ESLプログラムをサポートしていただいた皆様に心から御礼申し上げます。

来年度も、皆様とお子様と一緒に勉強することを楽しみにしております。

Tony Henderson

ESL Coordinator

KIST Tutoring Program

今年、新しいチューターリング・システムを確立しました。CAS(クリエイティビティー・アクション・サービス)の一部として、セカンダリーの生徒がプライマリーとキンダーガーデンの生徒の苦手な教科のチューターし、大成功をおさめました。

保護者の方には、お子さんの進み具合に関して、チューターと密に連絡をお取りいただき、ありがとうございました。

また、学校の勉強や課外活動の過密スケジュールの中、このプログラムに参加して、生徒の持てる力を発揮するために手助けしてくれたセカンダリーの生徒たち、ありがとう。

チューター、生徒、保護者の方までも熱心に毎週のチューターミーティングに参加しているのを見るのはとても素晴らしいことでした。

来年も引き続きサポートしていただける事を願っております！

Carmina Mancenon [Grade 10]

Tutor Program Coordinator

Celebrations at KIST

5月15日(木)、生徒とスタッフは「家族の」衣装を身に付けて「国際家族の日」をお祝いしました。伝統的な民族衣装や、国旗を身につけ、全校集会に出席しました。全校集会では、KIST家族のスライドや、G6の劇を見たり、新たに事業を立ち上げるフィリピンの家族をサポートしているNPO: The Philippines Self Help Fundについての話を聞いたりしました。このNPOに、フリードレスデーとして一人100円ずつを寄付しました。このお祝いのために時間を割き、貢献をして下さった皆様に心より御礼申し上げます。

Celebrations Committee

IS THIS THE WORLD YOU WANT TO LIVE IN?

ここはあなたが住みたい世界ですか？
 鰯が缶詰に入っているように混雑している世界
 それとも自分の空間がほしいですか、
 それが世界をより快適な場所にする

ここはあなたが住みたい世界ですか？
 食べ物や住まいを見つけるのがとても難しい世界
 それとも十分な食糧がほしいですか、
 それがみんなの必需品を満たす

ここはあなたが住みたい世界ですか？
 若者が次々と捨てられていく世界
 それとも彼らに収入を得てほしいですか、
 それが家族に笑顔をもたらす

ここはあなたが住みたい世界ですか？
 木が次々と切られていくのが罪ではない世界
 それとも罪になる世界がいいですか、
 それが地球汚染に歯止めをかける

ここはあなたが住みたい世界ですか？
 何かの決断をしなければならない
 人口を管理する目標は見逃せない
 産児制限と教育はこれの解決策の一つです
 だから目覚めてすぐに行動を起こして
 さもなければこの問題が深刻化していく

Yash Jhaveri (G5)



Home/School Safety

こんにちは、私は五年生のShreyといいます。

私のエキシビションの主題は子供の安全です。では今から、当校の生徒たちに通学についてお話をしたいと思います。

生徒達は通学中寄り道をしてはいけません。なぜなら不審者に出くわす可能性があるからです。

生徒たちはつねに安全であることが大事であり、これは通学中も同じです。

生徒たちが安全であることはとても大事です。

**By: Shrey Shanbhag -
Grade 5M**

動物を 守ろう

みんな
注目!!!

今こうどうをおこそう！

もし一しゆいでもある動物がぜつめつしたら、すべての動物にえいきょうします。もしある動物がぜつめつしたら、しぜんはかいがおこります。

すべての動物たちは、私たちの地球の一部であり、私たち人間は動物たちときょうぞんしていかなくてははいけません。

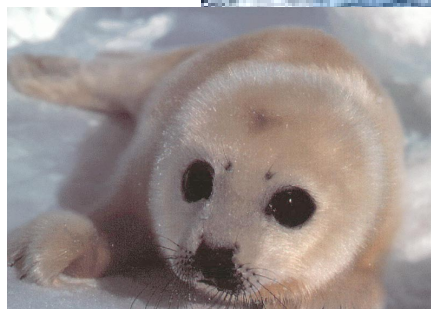
地球にすんでいる動物たちは、へっていています。

もし私たちがもっと動物たちを見たかったら動物たちをまもらなくてはなりません。

人間は、たくさんの物をむだしこしてそれが、海に流れて、海の動物を殺しています。

私たちの未来は動物の未来です。

ちゆしんとなる考えかた
“生き物の多様性と文明の未来はわたしたちのこうどうにかかっている”



どうして気をつけなくてははいけないか

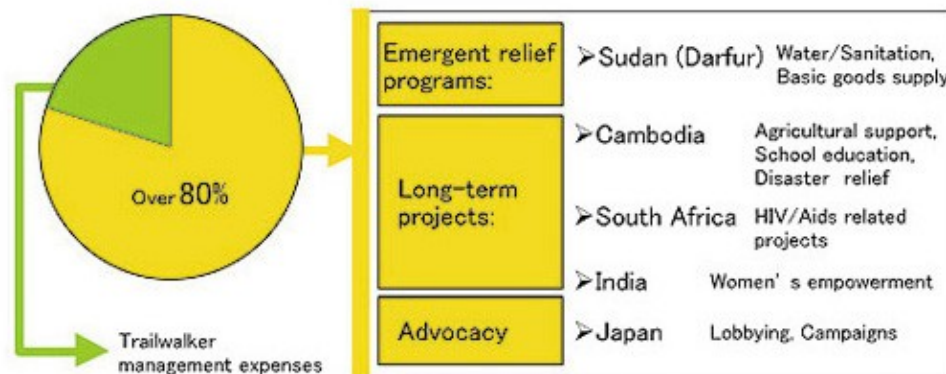
**BY RINA OSAKI
(G5)**

Oxfam Trailwalker & KIST 2008

Oxfam Japan

Mr. Paterson、Mr. Westonと私は、KISTコミュニティーのOxfam Japanの災害地復旧活動と長期地域開発活動の募金活動の一環である小田原から山中湖への100km TrailWalkerのハイキングイベントへのサポートに心から感謝を申し上げます。

以下の100km TrailWalkerの経験談とOxfam Japanについての情報をお読みください。



Oxfam Japan TrailWalker 2008のイベントで集められた募金の80%以上は世界中でおこなわれているOxfamの活動をサポートします。集められた募金の残額はイベントの運営費に使われます。募金の使い方の割合はTrailWalkerで集めた募金額と企業スポンサーの協賛額によって決まりますが、Oxfamの活動をサポートするため、募金額の80%以上はOxfamの活動に充てられ、運営費が20%を超えることはありません。

Donation amount for TrailWalker Japan

KISTのコミュニティーは世界平均以上の募金を集めることが出来ました。KISTコミュニティーの寛大な貢献にお礼を申し上げます。

KISTコミュニティーの合計募金額： ¥77,437,675 (約 \$661,917)

各チームの平均募金額： ¥450,000 (約\$3,846)

Where the money goes?

KISTコミュニティーが集めた募金は費用を差し引いたあとOxfamの活動に充てられます。

Emergency Aid

ダルフル地区、スーダン

Long-Term Community Development

カンボジア：長期地域開発

インド：女性の権限拡大と生活レベルの向上

南アフリカ：AIDSの撲滅

Your money will support...

緊急援助ーダルフル地区危機

スーダンのダルフル地区では

250万人もの市民が家を追われ、難民となっている

市民と救援部隊への武力行使が日々行われている

5年以上、世界で最も大きな人道的危機が続いている

The Course

スタート地点- CP(チェックポイント)1, CP1 - CP2, CP3 - CP4, CP4 - CP5, CP6 - CP7, CP7 - CP8, CP8 - 最終地点、山また山！7つの山を登ります！もっとも山がちなCP4 - CP5 の頂上にたどり着いて腰を下ろした4:00 AM、私たちは残りまだあと50km、山を3つ超えなければならないことに気付きました。ここで一応お断りしておきますが、全チェックポイント間は上り下りがあり、ほぼ標高ゼロメートル近くまで下りてきて、また登るのくりかえしなのです。



私たちは始めから中位をキープしようと頑張ってきました。我がチーム *The Crew* (#182)は、登りと平地にとっても強かったのですが、膝の故障にかかりやすいため下りはちょっと苦手でした。サポートチームなしに(たぶんサポートクルーなしのチームは我がチームのみだった)寝ずに(後から思えばこれは間違いだった)100kmを目指したことは、誇りに思っています。

今回はサポートクルーを従えて(背中の荷物が重すぎた)コース中必要な食料を自分たちでは持たないことにしました。サポートクルーは実によくできた方法で、チームメンバーは水さえ持っていればOK。各チェックポイントにクリーンキットが用意してあるし、CP4ではバーベキューも食べられます。

CP4 - CP5の頂上地点、4時AMごろ、我がチームの2人が挑戦をあきらめることを決めました。

今回、私たちは ¥200,000を集め、22時間半、55kmを歩き、4つの山頂を征服しました。それだけでなく、チームとして仲たがいすることなくいつもお互いにサポートし合えたことは語るに値するものだと思います。歩いている間の悪条件、特に暗くなってからの条件の悪さ、明け方の寒さで我々の気力は最低まで落ち込むことを考えていただければ、いかにこれが素晴らしいことかわかっていただけではないでしょうか。

この経験をいかし、スクールの皆様にサポートしていただいて、2009年のイベントにタックルしたいと思っています。サポートクルーを募って、これから定期的にコースで訓練する必要があります。スクールで生徒イベントをしてさらに皆さんに認知してもらおうなどの方法を現在考察中です。詳細についてはまた追ってお知らせいたしますので、お待ちください。

Thank you all!

皆さんのサポートなしには何もできませんでした。ありがとうございました！

Mr. Paterson, Mr. Weston & Mr. Thompson

Photo by Terrence Weston

Secondary Newsletter May 2008

この場をお借りして、本校の生徒が日々スクールコミュニティに貢献する方法について考えてみたいと思います。

本校では、MYP、DPの正式プログラムとして、MYPでは、コミュニティサービス活動の記録、DPでは、CAS(クリエイティビティ・アクション・サービス)の記録を生徒が取ることになっています。活動がコミュニティサービス活動としてふさわしいものかどうかを決める条件は、二つあり、一つはボランティア活動であること、もう一つはその活動がコミュニティに貢献するものであることです。

生徒には、彼らの貢献そのものだけでなく、彼らの行動がコミュニティに及ぼす効果について気付かせることが重要です。このような貢献は日々行なわれており、忙しい学校生活の中で時にはほとんど気づかれることがないような小さなものでも、実は大変大きな違いをもたらすようなものもあります。例えば、ちょっといららしているクラスメートに対してにっこり笑って「おはよう」ということ。手にいっぱい荷物を持って本を落としてしまった生徒の本を拾ってあげること。友達がクラスメートにジョークを言って、それが相手を傷つけたことに気付いたら、「ちっともおかしくないよ。」ということ。その意見に賛成でなくても、相手が意見を言い終わるまでしっかり聞いて待つこと。

一日の終わりにリストを書きだしたら、君は一日でいくつぐらいできたでしょうか？

コミュニティサービスという考え方は、自分たちの延長(extending ourselves)に基づいています。これはアカデミックな意味でも同じように生徒に要求されています。DPのエッセイがExtended Essayと呼ばれることからそれがわかります。コミュニティでの私たちの与える影響を認識することで、自分たちの延長としてコミュニティサービスに意識的に努力し、小さなことから始めることができます。

Damian Rentoule

Upper School Principal / Vice Principal